

教科	前年度正答率(%) 【全国比(P)】		課題となる 観点	問題番号・出題のねらい ＜学習指導要領＞	前年度本校正答率 【全国比】	児童生徒の誤答の傾向と分析(○)、教育指導上の要因分析(●)	課題改善のための＜指導場面(指導時期)＞と具体的な取組	目標値	検証値
国語	教科全体	54.9 [-9.3]	思考・判断・表現	情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約している。＜3・4年思判表0(1)ウ＞	7.1 [-26.2]	○内容を捉えて、文章中のさまざまな情報の中から大切な文や語を捉えることができていなかったことが考えられる。 ●大切な文や語となるものにはどんな特徴があるか、それを見付けるためにはどのような視点が大切かを理解させる指導が不十分であった。また、長い文章を要約する機会が少なかったことも考えられる。	＜説明的な文章の授業(7月・11月・2月)＞ 「目的や条件に応じて文章を自分の言葉で再構成する言語活動」を位置付けた単元により指導し、情報と情報の文章全体の中の役割や相互関係について大まかに把握させたり、大切な文や語を捉えるための視点を把握させたりする。 ＜読書(通年)＞ 説明文を読み、それを要約したり、自分の思いや考えをまとめて書く活動を継続して行う。	正答率 35%	% 【P】
	知識・技能	56.6 [-10.9]							
	思考・判断・表現	45.2 [-10]							
	主体的に学習に取り組む態度	32.9 [-11.7]							
社会	教科全体	【】	<>			○ ●	＜(月)＞	正答率 %	% 【P】
	知識・技能	【】							
	思考・判断・表現	【】							
	主体的に学習に取り組む態度	【】							
算数 / 数学	教科全体	59.0 [-5.8]	思考・判断・表現	示された考えをもとに、数の相対的な大きさを使って、小数の減法を整理の減法に直している。＜4年A(4)イ(ア)＞	14.3 [-13.7]	○4.2は0.01の何個分になるかを理解できていないことが考えられる。 ●小数の加法的な見方を養うことが不十分であった。また、小数の整理の仕方も整数と同じように考えられることも繰り返し伝えていく必要があった。	＜小数を取り扱う授業(4・6・10月)＞ 「小数」を行う単元により指導し、その中で、小数の仕組みの確認を行う。	正答率 30%	% 【P】
	知識・技能	64.3 [-6]							
	思考・判断・表現	47.9 [-5.4]							
	主体的に学習に取り組む態度	44.3 [-1.2]							
理科	教科全体	58.6 [-8.3]	思考・判断・表現	簡易検流計のつなぎ方の誤りを説明できる。＜4年A(3)イ＞	0.0 [-17.8]	○電流の流れる仕組み(回路)について理解できていない。 ●説明を聞きながらだと簡易検流計を正しく繋ぐことができるが、自分で考えて、簡易検流計を繋ぐ活動が不十分であった。	＜簡易検流計を取り扱う授業(3月)＞ 「簡易検流計」を取り扱う単元により指導し、その中で、簡易検流計を話し合いながら繋ぐ活動を取り入れる。	正答率 30%	% 【P】
	知識・技能	65.5 [-9.1]							
	思考・判断・表現	48.2 [-7]							
	主体的に学習に取り組む態度	53.2 [-6.5]							
英語	教科全体	【】	<>			○ ●	＜(月)＞	正答率 %	% 【P】
	知識・技能	【】							
	思考・判断・表現	【】							
	主体的に学習に取り組む態度	【】							